

こんにちは！健保組合です！

大佐和運送 株式会社の巻

「日の丸」の活躍にエールを送った米国の冬季五輪も終わり、季節の移ろいに自然も人も心を和ませる春になりました。

三寒四温という言葉もありますが、この日は取材前の冷たい雨が嘘のように感じられ、車に乗っているだけでも汗ばむような好天に恵まりました。

☆☆☆☆

三月六日、私たちが事業所訪問の第一回目としてお邪魔したのは、富津市千種新田に所在する大佐和運送株式会社でした。

富津市は、昭和四十六年に旧富津町、大佐和町、天羽町が合併して生まれた街で、東京湾に突き出た岬があり、南部には鹿野山マザー牧場や鋸山など、豊かな緑と穏やかな海に恵まれたところです。

市の名前の由来は、「古津（ふる

つゝ古い港を意味する）」や、「布流津（ふるつゝ日本武尊と弟橘媛の伝説にある姫の入水の際に流れた布から由来する）」などいくつかの説が存在するそうです。今日お邪魔した大佐和運送の社名の由来は、旧大佐和町によることを後でお聞きしました。

この大佐和地区では近年、特産のアナゴを材料にした「はかりめ（アナゴの容姿が秤目に似ていることからついた別称）井」を地元の名物にしようと各飲食店では幟を掲げてPRに頑張っているそうです。

同社の事務所はJR内房線大貫駅の側であり、私たちは到着すると事務室のある二階へ足を運びました。

「こんにちは健保組合です！」とあいさつすると、社長室からよく響き渡る声で「ようこそ」と、榎本社長が私たちを出迎えてくださいました。

い「心のサービス」の励行を社員の方々に徹底し、他社との差別化を図られたそうです。氏は「サービスは異業種から学んだ」とつけ加えられ、限界のある運賃競争から限界のない「プラスワンサービス」に同社の活路を見いだされたようでした。

引越事業に関しては、全国をネットワークで結ぶ「日本引越センター（J.N.E.T）」を他の企業と構成し「Jネット房総」としてグループの中核を担っておられ、「単身・家族からオフィス・工場移転まで全国をカバーする引越のプロ集団」をキャッチコピーに精力的に事業展開をされているようでした。

「これからも『セールスドライバー』としての社員の資質の向上を図りながら、百貨店形式ではできないアイデアのあるきめ細かなサービスで生き残り競争に勝ち抜くことが命題」と、この話題を締めくくられました。

榎本社長の人となりは、周囲との調和のなかで持論を浸透させていく不思議な説得力のある方だと私たちが

多彩な経験と
趣味が培った
瞬時の決断力

手ぬぐいに染め抜かれた「浮世積り哲学」



榎本社長

同社社長の榎本守男氏は、健保の組合議員に第六期から就任されています。

取材の冒頭、氏は「組合運営は外野から見ると役員として中に入っていると奥が深く、その難しさや厳しさをひとと感じた」とおっしゃいました。

私たちは組合の現状を機会があるごとに周知してきたつもりでしたが、榎本社長の言葉に加えて、「組合役員は多くの事業主が経験して勉強すべき」と言ってくださった役員経験者の言葉を思い出し、組合は外部からわかりにくいところが多く、今までの啓蒙活動はまだまだ自己満足にすぎなかったことを深く反省したところでした。

眼の届く範囲内の組織規模が 能力に応じた適正範囲

続いて、現在の運送業の経営の難

は感じました。

取材のなかで、健康法や趣味をお聞きしたところ、氏は「ゴルフ」「麻雀」など比較的ポピュラーなものを最初に挙げられました。氏は「実は……」と最後に「手品」をつけ加えられたことには驚かされました。

お聞きすれば若いころから興味があり、大道芸人が大衆を集めて手品を披露する場所には喜び勇んで駆けつけられたそうで、手品道具まで収集されておられるそうです。

とっておきの仕掛けとテクニクで老人ホームを慰安したりもしたそうですが、「手品は、人が不思議がり、アツと驚くところが楽しい」とおっしゃいました。

また氏は、青果市場の競りを仕切られた経験ももちで（市場でのあの独特の声を想像し、榎本社長のよく響きわたる声に納得！）、相場の気配を察しなければ商いが成立しなくなるということから、瞬時の決断力を培われたこともお聞きしました。

前述した氏の醸し出す人柄は、多彩な経験と茶目っ気のある趣味の一端の現れかもしれません。

その後、環境問題や土地問題、税制問題等についてはし意見交換をさせていただくことができ、有意義な時が

しさにについて榎本社長からお聞きしました。

「デフレ社会はモノの価値が下がるなか、物流コストは各企業にとっていちばん経費削減の対象になりやすい部分であり、そのことに伴って仕事を引き受ける運送業者間の競争が激化し、結局は常に弱い立場に甘んじてしまっている」とのことです。同様の現象は他業種にもあるとは思いますが、この構造を変えないかぎり、物流業界のステータスは確立されないとのことです。こうした状況を独自に打破するためには、特に中小の事業者は、経営者の舵取りや資質がまさにその企業を左右することになるわけであり、自ら眼の届く範囲内の組織規模が能力に応じた適正範囲と割り切ってしまうことが大切だ、とご自身の経営論を語られました。

「心のサービス」を励行し 他社との差別化を図る

次の話題は社史等に移行しました。大佐和運送は、昭和三十六年に設立された地方卸売市場君津青果株式会社で取り扱う荷物を運搬するため昭和三十七年に誕生したそうです。設立当時は、市場の商品をはじめこ

またたく間に過ぎ、取材を終えました。大佐和運送の皆さん、お忙しいなか、ご協力ありがとうございました。

☆☆☆☆

最後に、今日の取材で発見した文言を原文のまま紹介します。

これは榎本社長の実家（広島県）が経営する美容室で、お客さんに配っている手ぬぐいに染め抜かれているものなのだそうです。現代社会においても実的に射っており、氏もたいそうお気に入りとのことでした。

浮世積り哲学

有る積りでも無いのが財産
浅い積りでも深いのが欲
飾る積りでも浅いのが嘘
隠す積りでも頭われるのが悪事
多い積りでも少いのが分別
高い積りでも低いのが見識
無い積りでもあるのが借金
深い積りでも浅いのが知恵
若い積りでも寄せるのが年波
儲かる積りでも損するのが商売
治った積りでも治らぬのが癖

☆☆

帰路につき、あちこちで「はかりめ井」の幟が朝よりもたくさん目にとまったのは気のせいでしょうか。今度行くときはぜひ、名物を食してみたいものです。



手ぬぐいに染め抜かれた「浮世積り哲学」